

Kagoshima University International Center for Island Studies

島嶼研だより

No.74

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

2017 年 10 月

主な記事

平成 28 年度に行った自己評価・外部評価について（河合 溪）	p1
学生奮闘記「なぜ島に関心をもつのか～島を活性化する意義」（丸山麻子）	p3
フィールドこぼれ話「海を測る 2 つの困難」（中村啓彦）	P11
連載 とうがらしに旅して 第十五回「花岡胡椒（二）」（山本宗立）	p12

平成 28 年度に行った自己評価・外部評価について

国際島嶼教育研究センター長 河合 溪

国際島嶼教育研究センターは平成 22 年に前身の組織である多島圏研究センターから改組され現在に至っている。第二期中期計画・目標を終了したということで、前田芳實学長より本センターの自己評価を行ったのちに外部評価を受けるようにというご意見をいただいた。ここでは外部評価委員会の内容等を報告させていただきます。

外部評価に先立ち、本センターで自己評価書を作成し外部評価委員に提示し、これをもとに評価をしていただいた。外部評価委員会は平成 28 年 11 月 11 日に大学院連合農学研究科会議室三階において開催された。外部評価委員会は、宮田篤郎委員長（鹿児島大学研究推進担当学長補佐）、広崎宏委員（独立行政法人国際協力機構 JICA 九州所長）、児島愛之助委員（公益財団法人日本離島センター専務理事）、中俣均委員（日本島嶼学会会長、法政大学沖縄文化研究所所長・教授）、東美佐夫委員（奄美市総務部長）より構成された。本センター関係者として、私以外に専任教員の高宮広土教授、大塚靖准教授、山本宗立准教授、そして、桑原季雄教授（プ

ロジェクト部会長）、仲谷英夫教授（出版広報部会長）、寺田竜太教授（交流企画部会長）にも参加していただいた。

外部評価委員会当日は宮田委員長、前田学長のあいさつの後、私より本センターの自己評価の説明を行い、外部評価委員より質疑応答を受け、その後、外部評価委員による協議が行われた。

外部評価委員からは、本センターは鹿児島大学において特色のあるセンターであると高く評価を受けるとともに、そこでの研究活動や教育活動について十分評価していただいた。また、この少し前に本センターが奄美市に設置した奄美分室を通じた地域との連携が「2017 年地域研究コンソーシアム地域連携賞」を受けていたこともあり、地域での活動においても高く評価していただいた。その一方で、鹿児島大学は「主として地域に貢献する大学」として地域活性化への取り組みへの一層の努力を進めることとしており、この観点からより一層の地域貢献活動を行うことの必要性が指摘された。同時に、このような地域貢献への取り組みを行う時の

大学全体としてのバックアップの必要性も指摘された。

本センターの活動は専任教員及び外国人客員教授、学内兼務教員、学外協力研究者の活動が総合されたもので、これらのネットワークから多くの成果をあげてきた。今回の自己評価書にも兼務教員の業績の項目を作成したが、外部評価委員からも本センターの活動の高さ維持していくシステムの一部として高く評価していただいた。また、外国人客員教授は、毎年度に世界の優秀な島嶼研究者が鹿児島大学に滞在し、多くの共同研究やプロジェクトを推進してきた。私が兼務教員と共にフィジーで研究を行なっているのも、本制度を利用し南太平洋大学から来た多くの優秀な研究者達と話し合いを進めた成果である。これは、私だけでなく多

くの兼務教員にとっても同じ事であった。そのため、学内外研究者からこの制度の重要性とその成果がもたらしてきた鹿児島大学の国際化への貢献が高く評価されていた。しかし、外部評価委員からは、この制度に対してはその学術的成果や国際貢献に対しての評価は非常に高かったが、一層の地域貢献参加の必要性とより目に見える形での成果を示すことの必要性が指摘された。そのため、上記の指摘と共に財政的な理由から、残念ながら本制度は本年度をもって終了することになった。

本センターでは外部評価を通して様々なご意見をいただいた。これを経て、本センターは研究推進機構に入り新たな方向に進みつつある。今後も様々なご意見を真摯に受け止め、活発な活動を進めていきたいと考えている。



外部評価委員会であいさつする前田芳實学長



外部評価委員